第１回　東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会　記録要旨

１　日　時　平成 29 年 7 月 18 日（火）14：00～16：00

２　会　場　置賜総合支庁　講堂

３　参加者　委　員　安部昌枝、井上清人、大森桂、金谷茂寿、清川千賀子
白石美保子、須賀一好、鈴木慈、清野一晴、高橋まゆみ
山口周治、和田廣（五十音順、敬称略）
※吉澤彰浩氏は欠席

事務局　津田教育次長
須貝高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室室長補佐
小野高校改革主査、奥山高校改革主査

４　内　容

(1) 県教育委員会あいさつ
(2) 設置要綱の説明及び検討委員の紹介
(3) 委員長及び副委員長選出
(4) 委員長・副委員長あいさつ
(5) 説明・報告
① 少子化の現状と高校再編整備の必要性について
② 「県立高校再編整備基本計画」について
③ 東南置賜地区の県立高校再編整備の検討の進め方について
④ 地域説明会の記録概要について
(6) 協議
① これからの東南置賜地区の高校教育に求められるもの
ア 子どもたちに身に付けさせるべき資質や能力について
イ 地域社会、地域産業にとって育成すべき人材について
ウ アとイを実現するために求められる高校教育について
② その他

５　発言要旨

(5) 説明・報告に対する質疑応答

（委員）
○ 私立高校に対する配慮が必要ということについて、公立と私立の授業料などの違いなども併せて、私立高校を守るということなのか。

（事務局）
○ 公立高校については、授業料無償であった。平成 26 年度からは所得制限が設けられたが、かなりの生徒が支援金を受けている。私立高校は公立より授業料が若干高いため公立並みとはいかないものの、以前に比べて国の制度と県の補助金もあって、経済的負担は軽減されている。
○ 山形県においては、公立高校と私立高校で７：３の比率で入学定員を設定する申し合わせをしており、現在も維持している。当検討委員会でこの比率を変更するという検討はできないので了承願いたい。

（委員）
○ キャンパス制の現状について説明願いたい。

（事務局）
○ 詳しくは、第３回の小規模校の在り方のところで資料等をお示しする。キャンパス制

は、分校は原則導入となる。他に、左沢高校と寒河江工業高校などは地域の検討委員会を経て導入した。取り組みの一例をあげると、教員が相手高校に出向いて授業することで、小規模校にない科目も学ぶことができたり、学校行事のマラソン大会を合同で開催したりしている。

（委員）

○　大学の進学率について今後どうなっていくと予測しているか、教えて欲しい。

（事務局）

○　大学進学率について、長いスパンでみると上昇してきているが、最近は横ばい状態が続いている。今後の予測は難しいが、そう大きくは変化しないのではないか。

（事務局）

○　今年３月の県内公立高校卒業者の進路選択は、およそ、４割が大学・短期大学への進学、３割が専修学校等への進学、就職は 28％であった。就職については、全国では 18％であるので、本県は全国と比べ高い状況である。また、本県の就職者を年度ごとに見てみると、県内への就職者が増えており、前年度は８割を超えている。しかし、進学者については、かなりの数が県外に出ており、卒業者全体でみると 55％が県外という数字になる。

(6) 協議

①　これからの東南置賜地区の高校教育に求められるもの

（委員）

○　幼少期は子どもたちの基礎づくりだと考えている。一人一人の個性や持っているものが更に伸びるような豊かな人間形成を目指して保育を行っている。高校も同じで、豊かな人間性と健やかな体を養って社会人としての資質を身に付けていかなくてはならない。

○　高校教育では、思考力や判断力、表現力など主体的な行動力、人間関係で必要なコミュニケーション力を身に付けて欲しい。地域活動に積極的に参加し、伝統文化を継承していく意識を備えていけるような教育を期待したい。進学しない生徒にとっては、授業としての学習は高校が最後になるので、学力はもちろん、社会に出てからの人間性、生きていくために必要な力、人間としての基礎となるものを身に付けさせて欲しい。

（委員）

○　少子化による再編は、現状からみてやむを得ない。

○　現実的には進学校と専門学科校とに分かれていくのではないか。米沢市内の進学校の他に、専門学科の米沢工業高校、米沢商業高校、置賜農業高校と、普通科の南陽高校、総合学科の高畠高校をひとくくりの中で検討していかなくてはいけないと思う。専門教育が主となる学校においては、社会に出てから必要になる一般教養を校外で学ぶことも重要である。インターンシップという体験は、進路決定には必要な教育であり、これが子どもの資質能力に反映してくると思う。

○　通学の視点は大切であり、地理的なアクセスは大きな問題になる。米沢興譲館高校と米沢工業高校が街の中心部から離れており、送迎する際の親の負担が大きい。更に再編整備が進むと、米沢市街に子どもたちの姿がなくなっていくのではないかと危惧している。

○　米沢市には、山形大学工学部と県立の米沢栄養大学、米沢女子短期大学がある。素晴らしい環境を生かし、高校と大学とのつながりを築いて欲しい。安心して高校教育を受け、県内に定住ができれば街の活性化につながると思う。

（委員）

○　とにかく子どもたちが主体であるので、これを第一に考えて欲しい。そのためには教育の予算を削らないで欲しい。教育は 30 年、40 年経たないと結果が出てこない。今はいいと思ってなされることが、何年か後には変わってしまうこともままある。先を見据えてやっていかないといけないことを痛感している。

○　先生の数を減らさないで欲しい。小学校、中学校も同じである。

○　冬に３人の子どもを３箇所の学校に送迎したが、とても大変であった。学校の設置場所も含めて、子どもたちのことを第一に、教育は100年構想で考えて欲しい。
○　普通科と専門学科が一緒にある学校があったり、様々な学校や体育施設が隣接していたりと、教育施設が集約した街づくりをして欲しい。また、スポーツの指導の点からみると、中学校３年生という一番伸びる時期に、高校受検がひとつのネックになっている。中高一貫教育についても考えて欲しい。

（委員）

○　大学生に、大学に入るまでにどのような勉強をしてくるべきかを書いてもらった。学習する習慣をきちんと身に付けておいて欲しいとか、学ぶことの楽しさを知っておいて欲しい、という内容が多かった。知的好奇心や学習する習慣は、子どもたちに身に付けさせるべき資質や能力として、最も大切であると考える。自立する意欲はこれから大切になる。いくら学問的知識を付けても、自立しようとする意志が子どもたちにないと活きない。
○　地域社会、地域産業にとって育成すべき人材について、県の再編整備基本計画の中でまとめられている６項目は大切な視点であると考える。
○　海外で感じたのは、今、日本からの留学生は減っているが、アジア諸国など他の国からの留学生が多いことである。グローバル化の重要性は認識しているが、優秀な子ほど外に出てしまうというジレンマがある。東北芸術工科大学で開催している、いかにして高校生の県外流出を止めるかというワークショップに参加した。優秀な人材を地元に残したい、戻ってきて欲しいという点から、グローカルという言葉が生まれたのではないか。今はインターネット技術も進んでおり、地元にいながらも情報発信はできる。郷土を愛し、郷土に貢献することに加え、海外にも通用する人材を育てていきたい。
○　そのため、高校教育では、自立するという意識を身に付けさせることに加え、就職や進学どちらにおいても、様々な経験をさせたり、自分を見つめさせたりするといったキャリア教育が大切である。

（委員）

○　地元の小学校の統廃合の検討委員会に係わり、小学生の数が減少する中どのようにするのが良いかを検討してきた。小学校は義務教育であるが、そこで学ぶべきことをしっかり身に付けさせられる環境を整えることが大切だと発言した。
○　高校は自分で選択して学校を選び、社会人になる準備として、将来どのような職業に就くか、どのような人生を歩むかを考える重要な時期であるとともに、不安定な世代である。高校入試の時点での希望が高校３年間で変わっていくことも十分にある。その時に、学校側で柔軟に対応できる環境を整えて欲しい。
○　子どもの数が減ってきたから単に学校の数を減らすのではなく、減ったことによってこの地区の子どもたちが、ある職業に就けなくなることのないようにお願いしたい。置賜の生徒の選択の幅が狭まらないように、配慮が必要である。
○　地域説明会でも、置賜地区は西置賜と東置賜を一緒に考えるべきだという考えがあったようだが、地区外に行きたい学校があったにもかかわらず、距離があるため、あるいは経済的な点から選択を諦めたということがないのかが気になる。生徒が進学を望む高校と実際進学できる高校とにずれがないようにしなくてはならない。
○　通学の視点やキャンパス制の導入などを考慮しながら、生徒が望む授業が受けられる環境を整えた高校の再編整備ができればと思う。農業高校を卒業したから農業に就くとは限らないし、商業高校や工業高校からでも農業に取り組んだり、進学するという道もある。このような進路選択に高校が対応するとともに、中学生にもっとＰＲをして欲しい。
○　大学に行かないと就職が厳しいとか、将来就きたい職業が決まらないからとりあえず普通科高校を選ぶということにならないようにして欲しい。

（委員）

○　県外からこの地区に移り住んだ時に高校の数が多いと感じ、置賜地区にいる子どもた

ちは安心だろうと思った。

○　中学生の高校選択には、大学に行くためにこの高校に行こうとか、大学に行かないからこの学校でいいなどと、いわば逆算するような考えがあるのではないか。高校生は、何に興味をもつか、どのような仕事があるのか、人生にはどのような楽しみがあるのか、将来どのようなことをしたいのか、などを見つける大切な時期であるので、決して人生を逆算する時期にならないような教育にして欲しい。

○　キャンパス制なども活用しながら、普通科であっても専門的分野の内容を見たり、大学との連携などにより様々な教育に触れたりする機会があると有意義だ。自分の子どもが中学から高校に進むときにも、見たことがないこと、知らないことを自分で選択することは難しいと思った。

○　豊かな人間性を育むことやコミュニケーション能力を身に付けることは大切である。現在は、高校生と地域の関わりが減っていると感じる。子どもたちはそれぞれ忙しく、地域での活動に参加する機会が少なくなっている。また、地域の立場から高校生に何か頼む場合、どれだけ頼んでよいか悩んでしまう。米沢商業高校などは学校単位で地域活動に参加しているが、このような活動はどんどん広げていって欲しい。

（委員）

○　何のために高校があって、何のために勉強するのか。多くの大人たちは、生きていくため、いい仕事に就くためと考えているのではないか。子どもたちに必要なことは、一つは健康であり、もう一つは人間力をどう作り上げていくかだと思う。

○　人間力には様々な要素があるが、生きる力としての忍耐力が大切ではないか。社会の荒波を乗り越えることが出来る強い忍耐力が欠かせない。

○　対人関係がうまくいかない理由として、自分本位の考え方を外に出し過ぎるということがある。他人を思いやる心を育み、協調性を身に付けることが大事である。更に、いつも前向きに取り組んでいくという姿勢が大切で、やればできるという自信を教えていかなくてはならない。高校では、基本的な生きる力につながることを教えて欲しい。他人のことを優先するということは、企業に就職してからお客様を第一にしたり、夫婦間で協調したりと、どんな場合にでも必要とされることである。

○　人口減少社会であるが、自分本位ではいけない。自分ひとりで生まれてきたのではなく、両親、祖先からのつながりがあって自分がある。自分が果たす役割や責任の自覚をもって行動できるように教えていかなくてはならないと思う。

（委員）

○　子どもたちが減れば、将来的に行政サービスも減り、経済活動も縮小し、町もなくなる。そうならないために、自治体や地域の人も努力をしている。自治体が企業を誘致したり、地域の方々はいろいろな町おこしを企画したり、人口を維持しようとして力を合わせている。

○　教育の立場からできるのは、郷土愛を高めていくことだと考える。地域が魅力あるまちづくりを推進していく中で、中学校、高校あわせて何ができるかを考えていかなくてはならない。子どもたちが自己実現していくための環境を整えることが必要なのではないか。生徒が自分自身の力を思い切って発揮でき、お互いに切磋琢磨して成長できる環境を整えることが一番大切なことであり、それを通して様々な力が育まれていくと思う。

○　現在、置賜地区には、多様な高校がありバランスがとれている。工業高等専門学校や水産高校等への進学を希望する者以外のほとんどの中学生は地区内の高校を選ぶ。それは、地区内に様々な選択肢があるからである。少子化による再編整備は仕方がないが、魅力ある高校づくりが望まれ、選択の幅が狭められないようにしていかなくてはならない。このことが、行政、地域が求めている人材の育成につながると思う。

○　地域外に出ていく子たちが、いずれ戻ってきたときに、ここはよいと言えるようなまちづくり、選択の幅をもった高校配置と魅力的な学校づくりなど、皆で努力をしていかなくてはならない。教育を通してどんな力を付けさせるのかは全国共通であるが、地元を愛する心を育て、戻ってきたいと思えるまちづくりをしていかなくてはならないと

思っている。

（委員）

○　以前、地元の中学校の再編の検討に関わったときに、大変だったことは、校歌であった。同窓生や卒業生から校歌がなくなると言われたことが一番のネックであった。

○　少子化が進む中、統合は当然あり得るべきだと考える。

○　今の大学生は「ゆとり世代」と言われる。私は、その学生たちに、何かに気付いたときに主人公になったり、専門性を生かしていけたりという時がきっと来るので前向きにその準備をするべきだと伝えている。

○　高校教育の中では、学力を付けることが第一である。大学も少子化で淘汰されてきている。国立大学は倍率が３倍を切ったら大変だと思うが、私立大学でも魅力のある大学の倍率は下がっていない。秋田県の国際教養大学は独自の特色を出している。

○　心の教育は大切である。デパートの入口に、精巧なロボットを置いても、客はありがとうとは言わない。しかし、人間がそこに立って客に合わせたひと言をかけると、客はありがとうと返答する。学生たちにも相手のことが気遣える人になって欲しいと思う。

○　地域の魅力を知ることは大切である。米沢の高校の教員が米沢のことを知らなかったら、伝えることすらできない。他の地域の方に贈り物をする際に、地元のパンフレットを添えて送ると大変喜ばれる。山形にしかない魅力を山形の人が伝えていく必要があると思う。誰でも主人公になれる機会があると思っている。

（委員）

○　少子化・人口減少の流れの中、高校再編はやむを得ない。学校規模の維持だけに限らず、小規模校なら小規模校なりに、独自性とか地域特性などを生かした特色のある教育が求められる。メリハリのある再編整備が望まれる。単なる数字合わせにならないよう、普通科、農業科、工業科、商業科など広い視野に立った学校構成を考えるという視点が大切である。

○　この地域は製造業の集積が高く、特に、米沢市は県内有数のものづくり企業が多い工業地域である。人口減少の中、この地域の企業は人手不足に悩んでいる。今後、製造ラインの自動化やＩｏＴの流れになっていくと思われ、製造業のきたない、よごれるといったイメージは払拭されてきている。しかしながら、生徒や保護者にとって、ものづくりや製造業、そして地域の企業のことについては、あまり理解されていないため、普通科の高校に進みがちであり、進路のミスマッチの一因になっているのではないか。地域の企業のことを理解してもらえる学習や教育環境が求められる。

○　山形大学工学部があり、有機ＥＬ照明を始め有機エレクトロニクスなど様々な研究部門が芽を出し始めている。鶴岡の慶應義塾大学先端生命科学研究所では、特別研究生や研究助手として高校生を受け入れて、研究マインドを醸成している。山形大学工学部との協定を結んでいる高校もある。高校生が興味を持てるこのような取組みを広げていくことが必要である。

○　米沢興譲館高校と米沢工業高校が郊外への移転し、跡地には米沢城史苑や健診センターができたが、若い人がとどまらなくなったために、街の賑わいがなくなったという声を聞く。学習教育だけではなく、高校再編を考えるにあたっては、地域活力や賑わいづくりにも寄与する視点も大切ではないか。

（委員）

○　高校教育に対する期待は非常に大きいと感じた。今の高校生は、素直で、一生懸命である。日々の学習課題や部活動にも熱心に取り組んでいる。一方、若干の物足りなさを感じる。与えられたことをきちんとこなす素直さがあるが、それだけではなく、自分で考え創造していく力が求められている。

○　自分で考える力を身に付けさせるためには、高校生が経験値を増やしたり、切磋琢磨する機会をたくさん設けたりしていくことが必要である。

○　今の高校生は、いろいろなものが与えられる一方で、こなすことに精一杯になっている。その中で、切磋琢磨させていくには、時には、外に出て自分と違う多くの人間と関

わらせることも大事である。高校の中でも切磋琢磨できる環境をつくっていかなくてはならないと思う。

（委員）

○　現代の子どもたちは、少子化の影響で厳しい競争社会に晒されておらず、打たれ弱く、生きる力が弱く感じられる。言い訳が通用しない社会で、自力で生き残る強さを身に付けるべきだ。現在の進学や就職において売り手市場であることは、本人の努力によるものではないことを自覚させなければならない。どんな時代であっても強い人間は生き残る。近い将来、ＡＩが発達し、人間の仕事を奪っていくと想定される。今さえ良ければと、刹那的にならず、危機意識や先を見通す先見性と人間力やスキルを身に付けるあくなき努力が必要だ。

○　ドッグイヤーと言われて久しいが、のんびり屋が多く、時間当たりの生産性を高めていく感覚が乏しい。目的が達成できない場合でも、教わっていない、時間がない、条件がそろっていないという言い訳は社会では通用しない。限られた条件の中でも前向きになり、最大限のパフォーマンスが発揮できる能力を身に付けさせるべきである。

○　近視眼的には進学や就労というものは自身の生活のためではあるが、社会のパラダイムや構造が変化してしまえば、振り回される人生になってしまうのは目に見える。今手にするお金といった目先のことにとらわれず、この地域社会や地域産業が今後どのような方向に進むのか、あらゆる手段を講じて情報収集に努め、しっかりと見定める見識が必要である。また、自分自身が社会の一員として地域の発展に貢献でき、公共心や利他の心を持つような人材育成に努めていただきたい。

○　高校教育には、理念や価値観の醸成が大事だ。学業に勤しむ事、進学や就労は自分自身が手にするお金の為だけではなく、国や地域社会の発展に寄与し、自分の存在は、現在から明るい未来に繋がる一部分の大事な担い手である自覚を持たせることが重要である。お金を持つこと、家を持つこと、車を持つこと等、物質的な取得は、目的ではなく結果の産物である。贅沢する事には何の意味も持たない。生きることとは何か、と根本から考えさせて欲しい。

（委員）

○　子どもたちには、どんなとき、どんな場所でもいきいきと生きて欲しいと思う。今の高校生や大学生を見ると、すぐにめげてしまうように思えるが、高校生の年代には、真面目にひたむきに努力するという力を付けて欲しい。基盤にあるのは、自己肯定感であり、自分を信じ、他人を信じることである。このことが、前向きに努力することにつながっていくと思う。

○　人口が減少していく地域では、開拓者の精神が必要になる。魅力ある地域や魅力ある仕事があれば、人は集まるが、人が集まらなければ活性化していかないということでもない。開拓者の気持ちをもって何かを始めることが必要で、助け合い、それぞれの良いところを生かし協働することで新しい社会をつくっていくという気概ある青年が育つと思う。

○　このようなこと実現するための方法は、学校では学ぶことが楽しいという環境をつくることである。学ぶことが楽しいと思えることが、学び続けることにつながると思う。

○　学校は、ともすると社会から隔離された場所であったが、これからは積極的に地域社会とのつながりをもっていく必要がある。そして、どこでも通用する強い子どもたち、地元愛のある子どもたちを育てて、この子どもたちが地元で活躍することを期待したい。このような生徒を育てる高校であってもらいたい。

（委員）

○　少子化とともに高齢化の時代であり、高齢者の世話が身近になってきている。介護の現場では下の世話など人が敬遠しがちな仕事もある。そのようなことにも目をそむけない人になるような教育も必要であると思う。